

病防第62号  
平成29年8月14日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

トビイロウンカの発生状況および防除（技術情報第5号）について（送付）

トビイロウンカの飛来状況については、平成29年7月25日付技術情報第3号で発表しましたが、その後の発生状況について下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考として御活用ください。

#### 記

8月上旬に実施した調査によれば、早植えおよび普通期水稻における防除適期は主に7月11日の飛来を起点としたものとなります。

トビイロウンカの本田での発生状況を把握するため、8月7日に県内48か所のほ場で払落し調査を行った。

#### 1 発生状況

- (1) 早植え水稻（20ほ場）での10株当たり成幼虫数は1.3頭で平成（2.4頭）よりやや少ないが、発生ほ場率は65.0%（平成62.7%）で平成並の発生であった（表1、図2）。
- (2) 普通期水稻（28ほ場）での10株当たり成幼虫数は0.3頭（平成0.6頭）、発生ほ場率は32.1%（平成38.3%）であり、いずれも平成に比べやや少ない発生であった（表1、図2）。
- (3) 本年の飛来時期は、6月22日及び7月11日であったが、今回の調査では早植えおよび普通期水稻とも発生していたステージは成虫が主体のほ場が多かったことから、7月11日の飛来個体が主に定着したと考えられる（表1、図1）。

#### 2 防除対策

本田での発生は平成並～やや少であったが、要防除水準に達していたほ場も一部で見られた。また、福岡管区气象台が8月10日に発表した九州北部地方の気象予報によると、向こう1ヶ月の平均気温は平成より高く、トビイロウンカの増殖に好適な条件になると予想されるため、以下に注意して防除を行う。

- (1) 7月11日の飛来個体を対象として予想される各地域の防除適期（第二世代幼虫期）は表2のとおりである。

- (2) トビイロウンカは増殖率が高く、低密度のほ場でも高密度となる恐れがあり、特に、箱処理剤を使用していないほ場等では注意が必要である。定期的にはほ場の発生状況を観察し、要防除水準（8月中～下旬(10頭/10株)、収穫30日前(30頭/10株)）を超えた場合、直ちに防除する。
- (3) 粉剤及び液剤は、トビイロウンカが多く生息する株元に付着するよう散布する。
- (4) トビイロウンカは、イミダクロプリド剤やBPMC剤に対する感受性が低下している（平成28年3月4日付技術情報第15号 [http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/H27/yosatu/160304gi\\_jyutu.pdf](http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/H27/yosatu/160304gi_jyutu.pdf) 参照）ので、防除に使用する薬剤の選定には注意する。
- (5) 飼料用米等の多肥栽培や栽培期間の長い品種では、多発する傾向があるので注意する。
- (6) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

表1 トビイロウンカの発生状況

10株当たり虫数

地点名	成虫				幼虫			計	地点名	成虫				幼虫			計	
	長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齢	中齢	若齢			長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齢	中齢	若齢		
山鹿市鹿北1	0.3	0	0	0	0	0	0	0.3	熊本市画図1	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0	0.7
山鹿市鹿北2	0	0	0.7	1.0	0	1.0	3.3	6.0	熊本市画図2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市菊鹿1	0.3	0	0	0	0	0	0	0.3	熊本市中無田1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市菊鹿2	0	0	0	0	0	0	0	0	熊本市中無田2	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0.7
阿蘇市内牧1	0	0	0	0	0	0	0	0	熊本市富合町新1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
阿蘇市内牧2	0	0	0	0	0	0	0	0	熊本市富合町新2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南小国町1	0	0	0	0	0	0	0	0	宇城市松橋町1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南小国町2	0	0	0	0	0	0.3	0	0.3	宇城市松橋町2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早植え注2) 南阿蘇村1	0.3	0	0	0	0	0	0	0.3	玉名市北牟田1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南阿蘇村2	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0.7	玉名市北牟田2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南阿蘇村久木野1	0	0	0	0	0	0	0	0	玉名市横島1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
注2) 南阿蘇村久木野2	0	0	0	0.7	0	0	0	0.7	玉名市横島2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山都町1	0	0	0	0	0	0	0	0	山鹿市南島1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山都町2	0	0	0	1.3	0	0	0	1.3	山鹿市南島2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲佐町早川1	0	0	0	0	0	0	0	0	山鹿市鹿本1	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0.7
甲佐町早川2	0.3	0	0	0	0	0	0	0.3	山鹿市鹿本2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八代市二見町1	2.3	0	0	3.7	1.3	2.7	0	10.0	菊池市赤星1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八代市二見町2	1.0	0.7	0	0.7	0	0	0	2.3	菊池市赤星2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芦北町大野1	0	0	0	0.3	0.3	1.3	1.3	3.3	大津町新1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芦北町大野2	0	0	0	0	0.3	0.0	0.3	0.7	大津町新2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均(20地点)	0.3	0.0	0.0	0.4	0.1	0.3	0.3	1.3	嘉島町下仲間1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(成虫・幼虫)	成虫計				幼虫計			0.6	嘉島町下仲間2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平年注4)	成虫計				幼虫計			0.6	八代市高田1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発生ほ場率	成虫計				幼虫計			65.0%	八代市高田2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	成虫計				幼虫計			0.2	永川町1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	成虫計				幼虫計			0.2	永川町2	0	0	0	0.7	0	0	0	0	0.7
	成虫計				幼虫計			0.2	芦北町花岡1	0	0	0.3	0.7	0	2.3	0.3	3.7	
	成虫計				幼虫計			0.2	芦北町花岡2	0	0	0	0.3	0.3	0.3	0	1.0	
	成虫計				幼虫計			0.2	平均(28地点)	0.0	0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	
	成虫計				幼虫計			0.2	計(成虫・幼虫)	成虫計				幼虫計			0.3	
	成虫計				幼虫計			0.2	平年注4)	成虫計				幼虫計			0.6	
	成虫計				幼虫計			0.2	発生ほ場率	成虫計				幼虫計			21.4%	

注1) 1地点につき、30株調査  
 注2) 早植え水稻(5月植え)  
 注3) 計はラウンドの関係で一致しない  
 注4) 平年値は2011年を除く過去9年



※ 調査日(8月7日)

図1 トビイロウンカの発生予想ステージ(熊本市のアメダスデータによる予想)

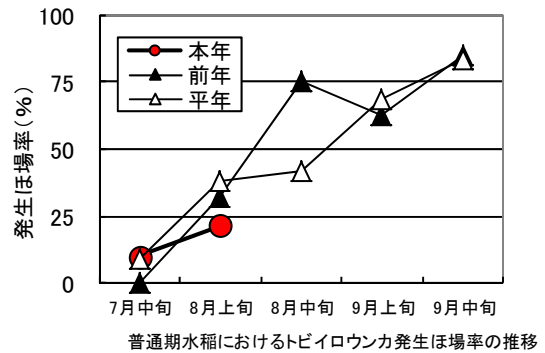
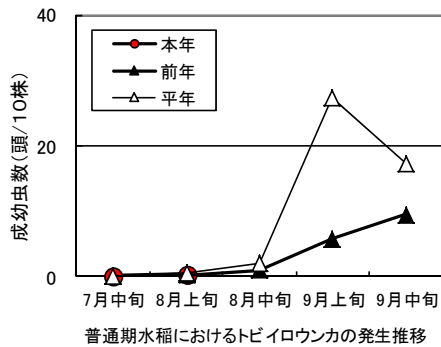
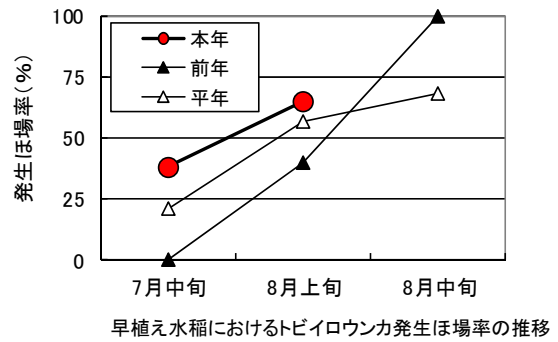
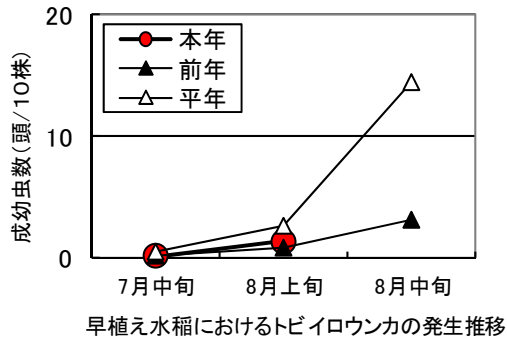


図2 早植えおよび普通期水稲での発生推移（左：成幼虫数、右：発生ほ場率）

表2 予想されるトビイロウンカの防除適期<sup>注)</sup>  
(7月11日飛来)

地点	防除適期 <sup>注)</sup> (第二世代幼虫)
熊本	8月23～29日
三角	8月23～29日
岱明	8月23～29日
鹿北	8月28日～9月3日
菊池	8月24～30日
阿蘇乙姫	9月3～9日
甲佐	8月25～31日
八代	8月24～30日
水俣	8月25～31日
人吉	8月27日～9月2日
本渡	8月27日～9月2日

注)・7月11日を起点として、各地点のアメダスデータ平均気温(8月8日までは今年のデータ、8月9日以降は平年値)をもとに、有効積算で今後の发育ステージを予測した。  
・有効積算は下記の条件で行った。

ステージ	有効積算温度(日度)	发育0点(℃)
成虫	125	12
卵	135	11.4
幼虫	250	6.5

熊本県病害虫防除所  
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
病害虫研究室 予察指導係)  
担当：春山・加賀山 TEL 096-248-6490